

## 放射線治療事故報告書

日本放射線腫瘍学会理事長殿

報告年月日： 年 月 日

[報告者]

事業者の名称及び所在地

責任者氏名：

所属：

連絡先：電話番号（ ） Email：（ ）

患者	イニシャル		性別
	年齢		
事故の概要	発生日時	年 月 日	発生場所
	概要（原因・経緯・線量の過誤の有無・有なら予定総線量との相違）		
障害の影響度分類 (次頁添付表参照)	レベル0・レベル1・レベル2・レベル3a・レベル3b・レベル4a・ レベル4b・レベル5		
AAPMの分類（添付 表参照）	クラスIタイプA・クラスIタイプB・クラスII		
事故後の対応	治療の概要等：		
公表の有無	あり（予定・公表済： 年 月 日） / なし		
JASTROへの 依頼希望事項	以下のうち、ご希望のものに○を付けて下さい。 第三者調査 / 委員推薦（委員数：約 名） / その他報告		

**注：上記報告頂いた事故事例に関する教育的事項に関しては、当会会員専用サイト等で、当該施設名等を伏せ、個人情報に配慮し、会員への周知に利用させていただきます。**

[添付表]

影響度分類

レベル	障害の継続性	障害の程度	障害の内容
レベル 5	死亡		死亡（原疾患の自然経過によるものを除く）
レベル 4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
レベル 4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など）
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった（患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）
レベル 1	なし		患者への実害はなかった（何らかの影響を与えた可能性は否定できない）
レベル 0			エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった

AAPM TG-35 の放射線治療過誤照射分類

クラス	タイプ	
クラス I		障害の可能性がある場合
	タイプ A	過線量が照射されたことで、患者の生命を脅かす障害に直接関与する可能性がある場合。照射された臓器と線量（1回線量と総線量）から決定。目安として Critical Organ の耐容線量の 25%以上の過線量が照射された場合、など
	タイプ B	過線量が照射されたことで、患者の生命を脅かす程ではないが障害がおきる可能性がある場合。目安として各臓器の耐容線量の 5～25%相当の総線量が過剰照射された場合で、以下の 3 つに分ける。なお、過小線量が照射された場合も Type B とする。
クラス II		障害の危険性が少ない場合